960H対応 H.264デジタルレコーダー

TH-R6104/R6108/R6116

取扱説明書

TOHO
CCTV
SECURITY

はじめに

このたびは、本製品をご購入いただきましてありがとうございます。
本製品を正しくお使いいただくために、取扱説明書をよく読み、保管をお願い致します。.

著作権/認証/商標/保証

■ 著作権

本取扱説明書のすべての内容・画像は、株式会社東邦技研の許可なく複写または複製して使用することはできません。

■ 認証

CE, FCC, KC

■ 商標

Ethernet(TM) はXerox Corporationの登録商標です。
Microsoft(TM), MS-DOS(TM), Windows(TM logo), Windows(TM) and Windows NT(TM)は米国 Microsoft Corporationの登録商標です。

■ 免責事項

製造者・代理店・販売店は、突発的な予期せぬ損傷または本製品の不適切な使用及び操作による損傷について一切の責任を負いません。
本取扱説明書上の情報は、現在の製品仕様に基づいて作成されています。仕様は予告なく変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。

注意事項

使用者は製品を使用する前に安全上の注意事項をよく読んで正しく使用してください。表示されている注意事項は安全に関する重要な内容を記載しています。なお、注意事項は危険、警告、注意の区分で表示されています。安全にお使いいただくために、必ず注意事項をお読みください。

.

	危険 取り扱いを誤ると、火災及び感電の恐れがあり生命の危険や、重傷を負う恐れがあります。 危険発生時警告の緊急性が最も高い事項です。
	警告 取り扱いを誤ると、重傷または軽傷を負うことがあります。 また製品の損害を招く恐れがあります。
	注意 取り扱いを誤ると、軽微な被害を招く恐れがあります。
	重要 操作に対する要求や制限を表示しております。 製品を正しく使用して、製品に損傷が発生しないように該当項目をお読みください。

上記内容は、使用者が本機器を誤って使用した場合に発生する損害の程度を表します。

	危険 取り扱いを誤ると、生命の危険や、重傷を負う恐れがあります。 危険発生時、警告の緊急性が一番高い事項です。

- 間違った電池を使用すると爆発の危険性があります。
- 本製品は屋内使用です。
- 製品の電源コードは使用説明書または製品仕様書に明示された形式のACコンセントを接続して 下さい。
- 製品内部に水を入れたり製品を湿気のある場所にて使用しないで下さい。
- 電源コードの上に本製品を含む重い物体を置かないで下さい。
- 製品の上に液体が入っている容器や小さい金属物体を置いたり、製品内部に液体または金属物体が入らないようにして下さい。
- 電源コードが損傷するので、曲げたり、捻ったり、捉えて引いたり、加熱しないで下さい。
- 製品のトップケースを外さないで下さい。また、製品の改造はしないでください。
- 雷の発生時は、速やかに製品の電源を消り、電源プラグを抜いて下さい。
- 電源コードは、本製品に同封されたものを使用して下さい。
- 煙、臭い、または騒音などの異常が発生したり、製品内部に異物や液体が入った場合は、直ちに 電源を消り、電源プラグを抜いて下さい。
- 製品を落としたり破損した場合は、電源を切り、電源プラグを抜いて下さい。
- 絶対に濡れた手で電源プラグを触らないで下さい。
- 保守が必要な場合は、必ずご購入の代理店にご連絡下さい。.

	警告 取り扱いを誤ると、重傷または軽傷を負うことがあります。 また製品の損害を招く恐れがあります。

- 電源やその他ケーブルなどを通路に放置しないで下さい。
- 製品が濡れないように気を付けて下さい。
- 雷鳴がする時、製品の電源スイッチを消してコンセントから電源コードを抜いて下さい。
- 落雷によって、製品が損傷することがあります。カメラケーブルとの接続する際は、電源ケーブルを接続しない状態で行ってください。

	注意 取り扱いを誤ると、軽微な被害を招く恐れがあります。

- 本製品に異質物が付いた場合にはやわらかい布やタオルで拭いて下さい。
- 異質物を取り除く場合、化学溶液(シンナー、ソルベントなど)は使用しないで下さい。
- 本製品を下記のような場所で使用および保管しないで下さい。
  (1) 極度に低温や高温な場所、または極度に湿度が高い場所
  (2) またはエアコン送風口前などのように急激な温度変化がある場所
  (3) ホコリが多い場所
  (4) 製品の両通風口からの放熱ができないような密閉された場所
- クレジットカード/テレホンカード/通帳/乗車券など磁気製品は本製品近くに置かないで下さい。
- 静電気は本製品の内部部品に損傷を与える場合があります。 製品背面の端子および製品内部の電子部品を触る前に、身体にある静電気を放出して下さい。
- 本製品が修理不能と見なされる場合には、廃棄に関する地域の法規に従って廃棄して下さい。

	重要 操作に対する要求や制限を表示しております。 製品を正しく使用して、製品に損傷が発生しないように該当項目をお読みください。

- 本製品は不安定な電源や電気的な衝撃により正常に録画されないことがあります。 必ず定電源　環境でご使用下さい。
- 本製品は停電に備えて設計されていますが、停電時の衝撃により製品が損傷することがあります。 製品が損傷すると既存のデータが損傷したり、停電時のデータが記録されないことがありますので、必要に応じて無停電電源（UPS)装置をご使用下さい。
- 本製品は映像データをハードディスクに保存するように設計されているため、ハードディスクの故、または予期せぬその他の故障により製品が正常に録画されないことがあります。 したがって、製品が正常に作動しているか定期的な点検を行ってください。
- 本製品は動作設定を、設置する環境により自由に変更できるように設計されています。そのため　使用者の設定誤操作により希望通りの録画がされない場合があります。 設定方法に不安がある場合はご購入の代理店にご相談ください。
- 本製品は外部装置(カメラ、センサー、ネットワーク　など)と接続され動作しますが、その外部装置の誤作動のにより、正常に録画されない場合もあります。 外部に接続されている装置につきましても定期的に製品の点検を行って下さい。
- 本製品や接続している周辺機器の不具合などにより、映像の録画や再生ができなくなる場合があります。正しく録画がされているかこまめに再生を行い確認してください。 なお、録画の不具合につきましては、一切保障はできません。 万一の故障や事故による映像の破損を防ぐためにも、映像のバックアップをお勧めします。

- 本製品では1kbは1,024バイトに相当し、1MBは1,048,576バイト、1GBは1,073,700,000バイトに相当します。

目次

はじめに 1
目次 4
第1章. DVRの紹介 6
1. DVRの紹介 6
2. 主な機能と特徴 6
3. 仕様 7
第2章. DVRの設置 10
1. 同梱品 10
2. 接続 11
3. 注意事項 14
第3章. DVRを運用する 15
1. 基本操作 15
1-1. フロントパネルとリモコン 15
1-2. 電源を入れる 16
1-3. メニューバー 16
1-4. アイコン 17
1-5. ユーザー/管理者ログイン 18
1-6. メインメニュー 19
1-7. ポップアップメニュー 20
2. 設定メニューの詳細 21
2-1. システム 21
2-1-1. メニュー > システム > 情報 21
2-1-2. メニュー > システム > 日付･時間 22
2-1-3. メニュー > システム > ユーザー 23
2-1-4. メニュー > システム > 簡易設定 24
2-1-5. メニュー > システム > システムログ 24
2-2. デバイス 25
2-2-1. メニュー > デバイス > カメラ 25
2-2-2. メニュー > デバイス > 音声 27
2-2-3. メニュー > デバイス > アラーム 27
2-2-4. メニュー >デバイス > コントローラ 27
2-2-5. メニュー > デバイス > RS232 & RS485 28
2-3.画面 28
2-3-1. メニュー > ディスプレー > 表示 28
2-3-2. メニュー > ディスプレー > スポット 29
2-3-3. メニュー > ディスプレー > デジタルサイネージ 29
2-4. 録画 30
2-4-1.メニュー > 録画 > 記録装置 30
2-4-2. メニュー > 録画 > 録画 30
2-4-3. メニュー > 録画 > 録画ツール 31
2-5. ネットワーク 33
2-5-1. メニュー > ネットワーク >アドレス 33
2-5-2. メニュー > ネットワーク > ダイナミックDNS 33
2-5-3. メニュー > ネットワーク > 遠隔通知 34
2-5-4. メニュー > ネットワーク > 映像配信 34

2-6.イベント 35
2-6-1. メニュー > イベント > センサー 35
2-6-2. メニュー > イベント > モーション 36
2-6-3. メニュー > イベント > ビデオロス 37
2-6-4. メニュー > イベント > テキスト 39
2-6-5. メニュー > イベント > システム 40
3. 再生 42
3-1. 時刻検索 43
3-2. 日付検索 43
3-3. イベント検索 43
3-4. テキスト検索 44
3-5. バックアップデータの再生 44
3-6. 再生ボタン 44
4. バックアップ 45
4-1. バックアップ 45
4-2. 簡易バックアップ 46
4-3. クリップ作成 46
5. 遠隔監視 47
5-1. 遠隔監視 47
5-1-1. ポップアップメニュー 47
5-2. 再生 48
5-2-1. ポップアップメニュー 48
5-2-2. 日時指定 49
5-2-3. カレンダー検索 49
5-2-4. イベント検索 49
5-2-5. テキスト検索 50
5-2-6. 注意事項 50

第1章. DVRの紹介

1. DVRの紹介

本製品はH.264圧縮技術を採用した960H対応の4/8/16chデジタルレコーダーです。一般ユーザーからプロフェッショナルユーザーまで幅広いユーザーに支持されています。

2. 主な機能と特徴

- ✧ H.264圧縮方式
- ✧ 内臓型Linuxに基づいた最高の安定性を保障
- ✧ 安定したデータベース構造
- ✧ 録画解像度 D1モード:(D1 /ハーフD1 / CIF)、960Hモード(WD1/ WHD1/ WCIF)
- ✧ COMETビデオ入力のサポート
- ✧ CMS(中央監視システム"NEMON2")のサポート
- ✧ CMSでもGUIと同様のDVR遠隔設定が可能
- ✧ Webを利用した監視、再生、設定が可能
- ✧ バックアップ再生のための独自のメディアプレーヤー
- ✧ フロントパネルにUSBポートを2個装備(マウス・バックアップ用)
- ✧ 最大2台までSATA_HDDをサポート
- ✧ e-SATAポートを装備(TH-R6108/R6116)
- ✧ 双方向オーディオ
- ✧ キーボードのコントローラーを利用したDVRの作動が可能
- ✧ 記録中サポートテキスト
- ✧ リアルタイム録音とマルチチャンネルの再生
- ✧ モバイルアプリケーション(iMon2)のサポート（iPhone＆アンドロイド）
- ✧ 記録およびリモート伝送で異なる解像度のデュアルストリーミング
- ✧ デジタルズーム機能

3. 仕様

■TH-R6104

型番			TH-R6104
映像	入力端子		4ch(BNC)
音声	入力端子		4ch(RCA-J)
	出力端子		1ch(RCA-J)
端子	センサー入力		4ch(TTL)
	アラーム出力		2ch(TTL)
	通信インターフェース		RS-232SC / RS-485 /USBポート×2(USB2.0)
モニター出力	表示フレーム		リアルタイム表示
	スポット		1ch(BNC 単画面もしくはシーケンス/メインモニター)
	メイン		HDMI×1、VGA×1　※同時出力可能
	解像度		1280×1024、1280×720、1024×768、720×576、720×480
	表示方法		1/4分割 / PIP / デジタルズーム
	OSD表示		日本語
記録媒体	ハードディスク		1TB(内蔵HDD2台まで)
	バックアップ		USBメモリ、USB外付けHDD
録画	映像圧縮		H.264
	録画解像度 フレーム数	960Hモード	WCIF(472×240)、120フレーム/秒
			WHD1(944×240)、120フレーム/秒
			WD1(944×480)、120フレーム/秒
		D1モード	WCIF(352×240)、120フレーム/秒
			HD1(704×240)、120フレーム/秒
			D1(704×480)、120フレーム/秒
	画質		4段階 (最高 / 高 / 標準 / 中)
	モード		常時 / スケジュール / イベント(センサー・モーション) / テキストイン / スケジュール+イベント / 緊急録画
映像再生	再生画面表示		1/4分割 / PIP / デジタルズーム
	検索方法		日時指定 / カレンダー検索 / イベント検索 / テキストイン
	再生時操作		再生 / 一時停止 / コマ送り / 早送り2～32倍 / 巻戻し2～32倍
ネットワーク	イーサネット		10/100/1000 Base
	プロトコル		TCP/IP / HTTP / DHCP / PPPoE / RTP/RTSP
DVR操作			本体ボタン / リモコン / USBマウス
電源	電源		AC100V 50/60Hz (ACアダプター DC12V 5Aより供給)
	消費電力		約40W
動作周囲温度			+5℃～+40℃
動作周囲湿度			0%～80% (結露なき事)
外形寸法			340(W)×67(H)×253(D)mm
質量			約2kg (HDDを除く)
付属品			ACアダプター、ACケーブル、リモコン、マウス、テスト用電池、CD、取扱説明書

■ TH-R6108

型番			TH-R6108
映像	入力端子		8ch(BNC)
音声	入力端子		オプションケーブル 8ch(RCA-J)　ケーブル型式 THR-AC01
	出力端子		1ch(RCA-J)
端子	センサー入力		4ch(TTL)
	アラーム出力		2ch(TTL)
	通信インターフェース		RS-232SC / RS-485 /USBポート×2(USB2.0)
モニター出力	表示フレーム		リアルタイム表示
	スポット		1ch(BNC、単画面もしくはシーケンス/メインモニター)
	メイン		HDMI×1、VGA×1　※同時出力可能
	解像度		1280×1024、1280×720、1024×768、720×576、720×480
	表示方法		1/4/6/8/9分割 / PIP / デジタルズーム
	OSD表示		日本語
記録媒体	ハードディスク		1TB(内蔵HDD2台まで)
	バックアップ		USBメモリ、USB外付けHDD
録画	映像圧縮		H.264
	録画解像度 フレーム数	960Hモード	WCIF(472×240)、240フレーム/秒
			WHD1(944×240)、240フレーム/秒
			WD1(944×480)、240フレーム/秒
		D1モード	WCIF(352×240)、240フレーム/秒
			HD1(704×240)、240フレーム/秒
			D1(704×480)、240フレーム/秒
	画質		4段階 (最高 / 高 / 標準 / 中)
	モード		常時 / スケジュール / イベント(センサー・モーション) / テキストイン / スケジュール+イベント / 緊急録画
映像再生	再生画面表示		1/4/6/8/9分割 / PIP / デジタルズーム
	検索方法		日時指定 / カレンダー検索 / イベント検索 / テキストイン
	再生時操作		再生 / 一時停止 / コマ送り / 早送り2～32倍 / 巻戻し2～32倍
ネットワーク	イーサネット		10/100/1000 Base
	プロトコル		TCP/IP / HTTP / DHCP / PPPoE / RTP/RTSP
DVR操作			本体ボタン / リモコン / USBマウス
電源	電源		AC100V 50/60Hz (ACアダプター DC12V 5Aより供給)
	消費電力		約40W
動作周囲温度			+5℃～+40℃
動作周囲湿度			0%～80% (結露なき事)
外形寸法			340(W)×67(H)×253(D)mm
質量			約2kg (HDDを除く)
付属品			ACアダプター、ACケーブル、リモコン、マウス、テスト用電池、CD、取扱説明書

■ TH-R6116

型番			TH-R6116
映像	入力端子		16ch(BNC)
音声	入力端子		オプションケーブル 8ch(RCA-J)　ケーブル型式 THR-AC01
	出力端子		1ch(RCA-J)
端子	センサー入力		4ch(TTL)
	アラーム出力		2ch(TTL)
	通信インターフェース		RS-232SC / RS-485 /USBポート×2(USB2.0)
モニター出力	表示フレーム		リアルタイム表示
	スポット		1ch(BNC、単画面もしくはシーケンス/メインモニター)
	メイン		HDMI×1、VGA×1　※同時出力可能
	解像度		1280×1024、1280×720、1024×768、720×576、720×480
	表示方法		1/4/6/8/9/13/16分割 / PIP / デジタルズーム
	OSD表示		日本語
記録媒体	ハードディスク		1TB(内蔵HDD2台まで)
	バックアップ		USBメモリ、USB外付けHDD
録画	映像圧縮		H.264
	録画解像度フレーム数	960Hモード	WCIF(472×240)、480フレーム/秒
			WHD1(944×240)、320フレーム/秒
			WD1(944×480)、160フレーム/秒
		D1モード	WCIF(352×240)、480フレーム/秒
			HD1(704×240)、320フレーム/秒
			D1(704×480)、160フレーム/秒
	画質		4段階 (最高 / 高 / 標準 / 中)
	モード		常時 / スケジュール / イベント(センサー・モーション) / テキストイン / スケジュール+イベント / 緊急録画
映像再生	再生画面表示		1/4/6/8/9/13/16分割 / PIP / デジタルズーム
	検索方法		日時指定 / カレンダー検索 / イベント検索 / テキストイン
	再生時操作		再生 / 一時停止 / コマ送り / 早送り2～32倍 / 巻戻し2～32倍
ネットワーク	イーサネット		10/100/1000 Base
	プロトコル		TCP/IP / HTTP / DHCP / PPPoE / RTP/RTSP
DVR操作			本体ボタン / リモコン / USBマウス
電源	電源		AC100V 50/60Hz (ACアダプター DC12V 5Aより供給)
	消費電力		約40W
動作周囲温度			+5℃～+40℃
動作周囲湿度			0%～80% (結露なき事)
外形寸法			340(W)×67(H)×253(D)mm
質量			約2kg (HDDを除く)
付属品			ACアダプター、ACケーブル、リモコン、マウス、テスト用電池、CD、取扱説明書

第2章. DVRの設置

1. 同梱品

本製品は下記の製品が同梱されています。

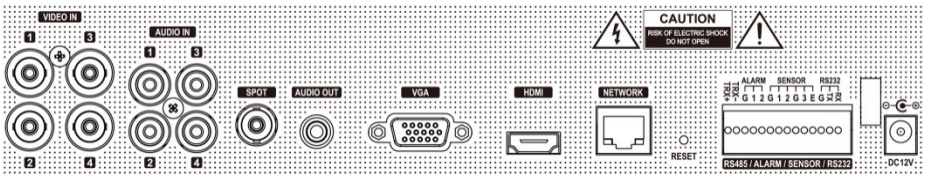
DVR本体	
ACアダプター(DC12V 5A)	
ACケーブル	
リモコン	
マウス	
取扱説明書	
CD 遠隔監視用アプリケーション	
音声入力ケーブル (オプション)	

※遠隔監視用アプリケーション(NEMON2)は弊社WEBサイトより最新バージョンをダウンロードすることができます。

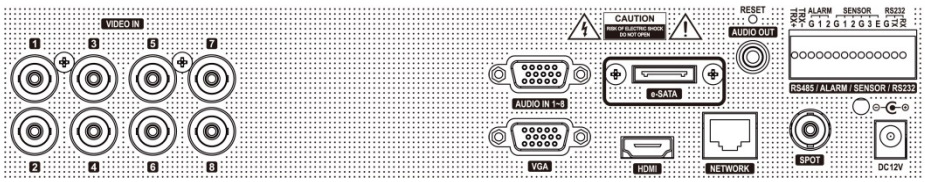
2. 接続

• フロントパネルのUSBポート(2個)はUSBマウス、バックアップ、FWアップグレード時に使用します。

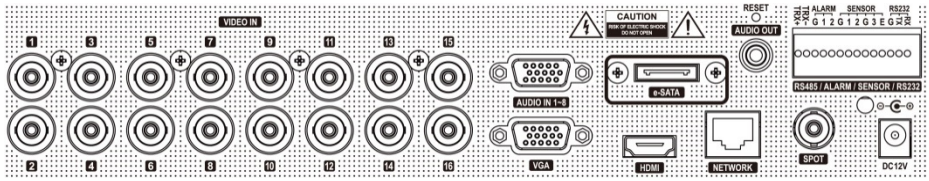
背面パネル:



<TH-R6104背面>

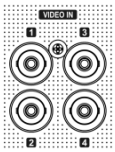


<TH-R6108背面>



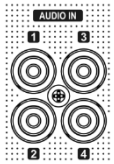
<TH-R6116背面>

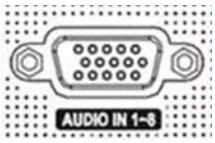
VIDEO IN(映像入力)



BNCコネクタでカメラと接続します。ケーブルは同軸ケーブルを使用して下さい。

AUDIO IN(音声入力)





RCAコネクタで集音マイクと接続します。接続には必ずプリアンプを経由したラインレベルのオーディオ信号を入力してください。

※TH-R6108/R6116で音声入力する場合は別途オプションケーブル(THR-AC01)を購入する必要があります。

スポットアウト出力 ※CVBS出力

本製品はスポット出力×1chと音声出力×1chを装備しています。

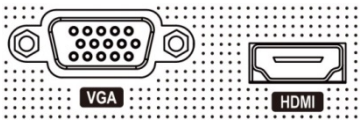
スポットアウト

指定したカメラ映像を出力する事ができます。単画面もしくはシーケンス表示。解像度は720×480になります。詳しくは第3章2「DVRの設定」を参照して下さい。

音声出力

音声を出力する事が出来ます。出力はラインレベルなのでアンプが内蔵されたスピーカーに接続して下さい。詳しくは第3章2「DVRの設定」を参照して下さい。

HDMI/VGAモニター出力



HDMIまたはVGAモニターを接続します。
HDMI / VGAモニターに同一の解像度を同時に出力します。工場出荷時の解像度は1024×768です。

■解像度変更方法

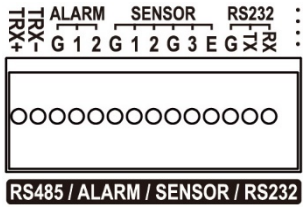
リモコンの[ZOOM]ボタンを3秒間押すと順番に[1280×720⇒1024×768⇒720×576⇒720×480⇒1280×1024]へと切り替わります。

もしくは[メニュー]⇒[ディスプレイ]⇒[表示]⇒[解像度]で変更します。

HDMIポートは、32kHzのサンプリング周波数のオーディオ出力を提供します。

※解像度の設定を1280×1024に設定するとHDMIケーブルで接続されたモニターには出力されません。
※デュアルモニター機能には対応していません。

RS-485 / アラーム出力 / センサー入力 / RS-232)

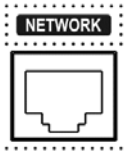


	RS-485ポート PTZカメラをコントロールする場合に接続します。
	アラーム出力×2ch(TTL) サイレンやライトなど外部機器を動作させる場合に接続します。
	センサー入力 外部センサーを接続します。 センサー用×3chと緊急録画用×1chがあります。
	RS-232 テキストイン機能を使用してATM/POS連動する場合に接続します。

e-SATA

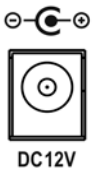
e-SATAポート
外付けe-SATA HDDを接続する事ができます。接続する機器よっては相性問題が発生する場合があります。

その他



ネットワークポート
LANケーブルを接続し遠隔監視を行います。
遠隔監視の設定は第3章2「DVRの設定」を参照して下さい。

リセットボタン
リセットボタンを押しながら起動すると設定を工場出荷時に戻すことができます。



電源端子
付属ACアダプターを接続します。

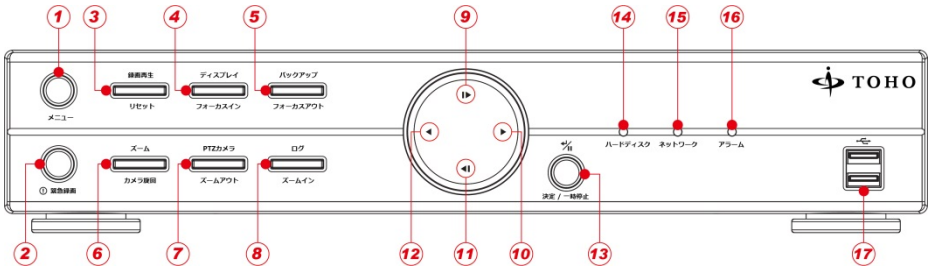
3. 注意事項

- 直射日光があたる場所やヒーターなど熱源のある場所を避けて設置して下さい。
  製品内部の温度が上昇すると、火災及び製品故障の原因になります。
- 製品の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬物 等、水分を含んだ容器を置かないで下さい。
  火災や感電の原因や落下による負傷の原因になります。
- DVR内に金属類(小銭、ピン、髪留具など)や燃えやすい異物(マッチ、紙など)を入れたり、落としたり
  しないで下さい。火災、感電など製品故障の原因になります。
- 装置上に重量物を置かないで下さい。落下により負傷の原因になります。
- ACアダプターが抜けないように確実にDVR本体に差して下さい。接続が不完全な場合は製品が正常に動作
  しない、または、火災の原因になります。
- 落雷の恐れのある時には本製品の電源を切りACアダプタを抜いて下さい。火災及び製品損傷の原因になるこ
  とがあります。
- 製品表面は乾いたタオルで軽く拭いて下さい。化学薬品や洗剤などは表面を変質させる場合があるので絶対
  に使用しないで下さい。
- DVRから煙が出たり、異臭がする時はすぐに電源を切りACアダプタを抜いた後、ご購入の代理店に 連絡をし
  て下さい。そのまま使用すると、火災、感電の原因になります。
- 電源コードを引っぱらない下さい。コード部分が破損した場合、火災及び感電の原因になります。
- 濡れた手で電源アダプタやレコーダーを触らないで下さい。感電の原因になります。
- 電源コードを無理に曲げないで下さい。火災及び感電の原因になります。
- 必ず付属の専用電源アダプタを使用して下さい。不適切な使用は感電及び火災の恐れがあります。
- 雨風に露出した場所、水に濡れそうな所に設置しないで下さい。感電、火災、変形の恐れがあります。
- 火気を近づけないで下さい。火災の危険があります。
- 製品の分解・改造はしないで下さい。故障と感電の原因になります。
- 可燃性スプレーなどを近くに置かないで下さい。火災の危険があります。
- ほこりが多い場所に設置しないで下さい。火災の危険があります。
- 振動のない平らな場所に設置して下さい。製品が落下してけがをしたり故障の原因になる恐れがあります。
- 電源コードの上に物を置いたり、電源コードがDVRの下敷きにならないようにして下さい。火災、感電の原因に
  なります。
- マルチコンセントを使用の時、多くの機器を同時に使わないで下さい。コンセントの異常発熱による火災の原
  因になります。
- 電源プラグの導体部分、またはコンセントにほこりなどが付着している時は、乾いたものできれいに拭いて使用
  して下さい。火災の原因になることがあります。
- 電源コードやプラグを損傷させる、加工する、ねじる、引っぱる、隙間に挟む、加熱するなどは絶対に行なわな
  いで下さい。 コンセントの差込部分が緩い時は使わないで下さい。火災、感電の原因になります。
- 製品の通風孔近くに品物を置かないで下さい。火災の危険があります。
- リモコン用電池は指定のものを使用して下さい。爆発の危険があります。
- 使用後のリモコン用電池は他のごみと分離して廃棄して下さい。
- リモコン用電池を抜く場合は子供が電池を間違って飲み込まないようにして下さい。
  万一、子供が飲み込んだ場合には直ちに医師に相談して下さい。

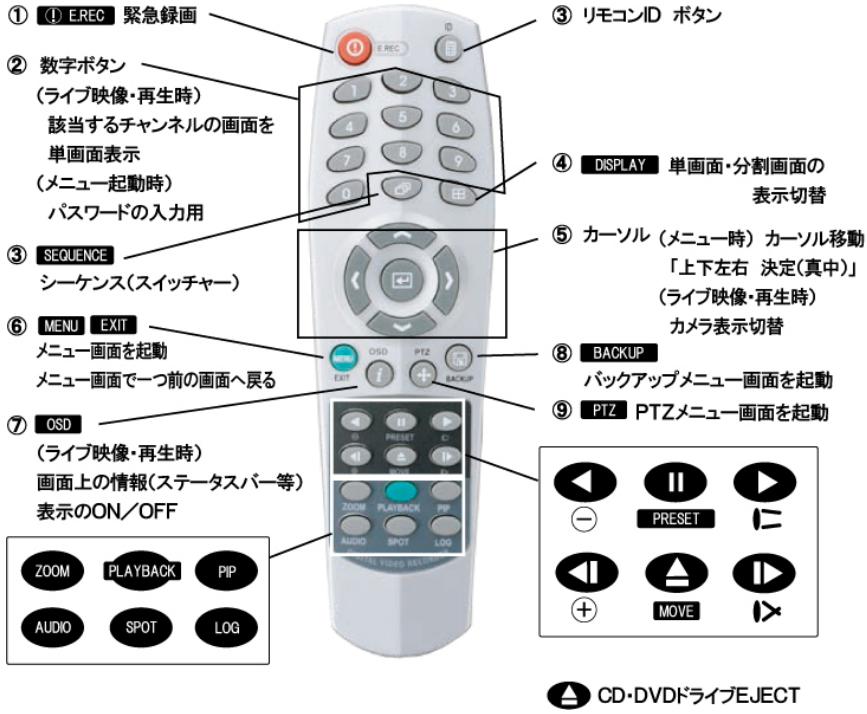
第3章. DVRを運用する

1. 基本操作

1-1. フロントパネルとリモコン



基本操作ボタン		通常時の動作	PTZモード時の動作
①	メニュー	メニュー画面表示/ 前画面に戻る	—
②	緊急録画	緊急録画ボタン	—
③	録画再生	再生画面表示	プリセット保存
④	ディスプレイ	画面表示切替(単画面/分割/シーケンス)	フォーカスイン
⑤	バックアップ	バックアップメニュー表示	フォーカスアウト
⑥	ズーム	ズーム表示 解像度切替	カメラ旋回ON/OFF
⑦	PTZカメラ	PTZ モードON/OFF	ズームアウト
⑧	ログ	LOG 表示	ズームイン
再生操作ボタン		メニュー時の動作	再生時の動作
⑨	▮▶	カーソル上移動	コマ送り
⑩	▶	カーソル右移動	早送り(x2/4/8/16/32)
⑪	◀▮	カーソル下移動	コマ戻し
⑫	◀	カーソル左移動	巻き戻し(x2/4/8/16/32)
⑬	決定/一時停止	項目の決定	一時停止
各種インジケータ			
⑭	ハードディスク	HDD アクセスインジケータ	
⑮	ネットワーク	ネットワークアクセスインジケータ	
⑯	アラーム	アラームインジケータ	
接続ポート			
⑰	USB ポート	マウス、USB メモリ等を接続	



1-2. 電源を入れる

付属のACアダプターを接続し、電源(AC100V)に接続するとDVRが起動します。起動に10～30秒掛かります。
起動が完了するとライブ画面が表示されます。

■電源をOFFにする

電源をOFFにするには[メニュー]⇒[シャットダウン]を選択して下さい。[電源をOFFにして下さい]と表示 されてから電源ケーブルを抜いて下さい。

■フォーマット

HDDを交換した後のDVRの起動時にはHDDをフォーマットする必要があります。
[メニュー]⇒[録画]⇒[録画装置]⇒[フォーマット]

1-3. メニューバー

画面下にメニューバーが表示されます。

MENU	メニューボタン 設定メニューリストが表示されます。
	デジタルサイネージのステータスを表示します。
NOT AVAILABLE	デジタルサイネージの状況を表示します。
	デジタルサイネージの進行状況を表示します

69GB/69GB	HDD全体の容量と使用容量を表示します。
	HDD上書き設定時に表示されます。
	シーケンスモード時に表示されます。
	DVRにネットワークアクセスされている場合に表示されます。
	アラーム出力発報時に表示されます。
	緊急録画モード時、表示されます。
2009-04-03 07:31:32 PM	日付と時刻が表示されます。
	リモコン使用が有効の場合表示されます。

1-4. アイコン

	録画していません。(灰色)
	録画中(赤)
	緊急録画中に表示されます。
	イベント録画中(赤) に表示されます。
	プリイベント録画中(青) に表示されます。
	モーション検知時に表示されます。
	センサー検知時に表示されます。
	POS連動機能等でのテキスト入力時に表示されます。
	PTZカメラ設定時に表示されます。
	簡易バックアップ動作中に表示されます。(灰色)
	クリップ作成動作中に表示されます。(水色)
	バックアップ動作中に表示されます。(赤色)
	カメラ映像入力がない場合(ビデオロス時)、表示されます。

1-5. ユーザー/管理者ログイン

DVRの操作を始める場合、システムにログインする必要があります。

工場出荷時 ID：Administrator　パスワード：なし

パスワードの変更や新規ユーザーの登録は[メニュー]⇒[システム]>[ユーザー]から変更が可能です。
またDVRを一定時間操作しない状態が続くと自動ログアウトさせる設定もあります。

1-6. メインメニュー

ボタンを押すとメインメニューが表示されます。

メインメニューは下記の内容で構成されています。メニューを操作するには本体ボタン、リモコン、マウスで行って下さい。

※メインメニュー設定変更後は不正防止の為、システムからログアウトするようにしてください。

メインメニュー	システム	情報
		日付と時刻
		ユーザー
		クイック設定
		システムログ
	デバイス	カメラ
		音声
		アラーム
		コントローラー
		RS232 & RS485
	ディスプレイ	表示
		スポット
		デジタル表示
	録画	記録装置
		録画
		その他
	ネットワーク	アドレス
		ダイナミックDNS
		遠隔通知
		映像転送設定
	イベント	センサー
		モーション
		ビデオロス
		テキスト
		システム
	ログアウト	
	終了	

1-7. ポップアップメニュー

マウスを右クリックすると、上記のポップアップメニューが表示されます。

デジタルサイネージ ： メニュー画面を表示します。
カメラ ： 表示するカメラを選択します。
OSD ： オンスクリーン表示のオプション選択をします。
フリーズ ： 監視映像画面を停止させます。
表示 ： 表示画面のオプション選択をします。
音声 ： 音声出力の選択をします。
PTZ ：PTZカメラモードメニューへの切り替えをします。
バックアップ ： バックアップオプションの選択をします。
再生 ： 再生画面への切り替えをします。
遠隔 ：PCを使わずに遠隔操作をします。
緊急録画 ： 緊急録画を選択します。
ログ ： システムログ・イベントログの選択をします。
メニュー設定 ： 設定メニューを表示します。

詳細機能は、第3章-2「設定メニューの詳細」を参照してください。

2. 設定メニューの詳細

2-1. システム

システムメニューでは、システムの情報・日付と時間・ユーザー・簡易設定・システム履歴の設定や表示ができます。

2-1-1. メニュー > システム > 情報

情報には、DVR名・MACアドレス（製品によりすべて異なる番号が設定されており変更できません）・現在のシステムバージョン/アップグレード・リモコンのID・映像信号タイプ・設定値のエクスポート/インポート/初期化　の機能があります。DVR名の右側にある↵ を押せば、上図右の仮想キーボードが表示され、DVR名を入力することができます。

本製品のファームウェアをアップグレードするためには、USBフラッシュメモリにアップグレードするファームウェアを保存してDVRに差し込んだ後、「アップグレード」ボタンを押せば自動でアップグレード作業が始まります。アップグレードに要する時間はおおよそ5分間で、アップグレードが終了すればDVRは自動で再起動されます。

注：アップグレード中には、USBフラッシュメモリを取り外したり、電源を消したりしないでください。
DVRに深刻な故障が発生することがあります。

リモコンID

リモコンIDを変更して複数のDVRをそれぞれ制御することができます。リモコンIDが「0」であれば、リモコンを使用する際にリモコンIDを選択する必要はありません。初期設定は「0」になっています。リモコンIDを変更したDVRを操作する場合は、操作前にリモコン右上のIDボタンを押して、DVR画面に表示される　ID番号に合わせてから使用します。

システム設定

この設定メニューで設定した値の保存や呼び出しを行うことができます。
出力: USBフラッシュメモリに設定値を保存します。
入力: USBフラッシュメモリに保存した設定値を読み込みます。
初期値:　工場出荷時の設定を適用します。

注:　インポートを実行しても、「システム」（簡易設定した内容は除く）と「ネットワーク」の内容は変わりません。また、初期値を実行しても、「ネットワークのアドレス」の設定内容は変わりません。

2-1-2.メニュー >システム > 日付・時間

■ 日時・時間

時間帯の右側の ▼ ボタンを押して、地域を選択します。

＊サマータイムを適用する場合はチェックボックスにチェックを入れ、開始時間と終了時間を合わせます。

▲▼ ボタンを押して、日付と時間を合わせます。

Format ボタンを押すと、日付と時間の表示形式を変更することができます。

■NTP

「NTPを使用する」を選択すると、DVRと時刻サーバー（NTP）を同期化することができます。

↵ ボタンを押すと仮想キーボードが表示され、NTPサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力できます。アップデートボタンを押せば、登録したサーバーとの時刻同期を行います。

注: ネットワーク伝送速度が遅い・障害がある・アクセス制限がされているなど、場合により時刻同期が行えないことがあります。

■ 休日設定

休日の設定ができます。

＋ ボタンを押すと休日が追加されます。

▲▼ ボタンを押すと日付の変更ができ、 X ボタンで削除することができます。

注: 毎年アップデートをしてください。休日と特定日が合わなくなることがあります。

2-1-3. メニュー > システム > ユーザー

ユーザー

DVRを使用するユーザーの登録やパスワードの変更ができます。

ユーザーを追加する場合は ⊞ ボタンを、削除する場合は ⊠ ボタンを押します。

自動ログイン: 起動する際、登録したユーザーを自動的に適用します。 許可されていない人が使用　できる環境にある場合は設定をオフにしてください。
自動ログアウト: オンに設定すると、指定した時間が経過すれば自動でログアウトします。
ユーザー名 ： ユーザー名の入力ができます。
グループ ： あらかじめ登録したグループを選択できます。
パスワード ： パスワードの設定や変更ができます。

注: 工場出荷時には、パスワードは設定されていません。

グループ

グループの登録や、グループの権限を設定することができます。

グループを追加する場合は ⊞ ボタンを押します。上図右の登録画面が表示され、グループ名の入力や、権限の詳細設定を行うことができます。グループを削除する場合は ⊠ ボタンを押します。

2-1-4. メニュー > システム > 簡易設定

順番に表示される画面に沿って、必要な項目の設定を行うことができます。

2-1-5. メニュー > システム > システムログ

システム設定の全ての履歴を見ることができます。

再読込ボタンを押すと、履歴のリストを更新します。 < > ボタンを使って前後のページに移動します。

出力ボタンを押すと、リストをUSBフラッシュメモリにCSV形式で保存することができます。

2-2. デバイス

デバイスメニューでは、カメラ・音声・アラーム・コントローラー・RS232＆RS485（POS/PTZ/システム　キーボード）を設定することができます。

2-2-1.メニュー > デバイス > カメラ

カメラ

カメラ番号の右をチェックすると、そのカメラが使用可能になります。カメラを繋がない場合はチェックは外しておきます。

↵ ボタンを押すと、カメラ名を変更することができます。また、色 ボタンを押すと、各チャンネル映像の明るさなどの色相を調節することができます。

プライバシー ボタンを押すと、左のように目隠しする範囲を設定できます。

PTZ

PTZ(パン・チルト・ズーム)カメラの設定（プロトコルやカメラIDなど）を行います。

リモコンのPTZボタンやDVRのENTERボタンまたはマウスの右クリックで表示されるポップアップ画面のPTZメニューを選択すると、詳細画面が表示されます。

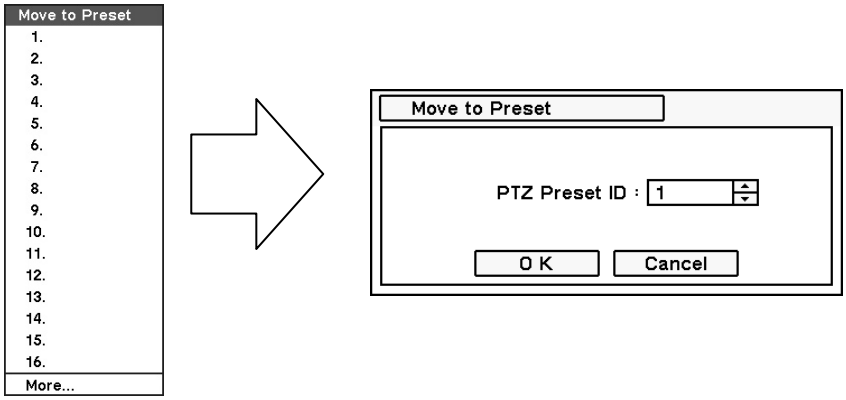
注：PTZカメラは、1画面表示の場合のみ制御することができます。

以下は、マウスで操作する場合の画面を表示しています。矢印をクリックするとカメラを動かすことができます。また、アイコンをクリックすると、PTZ機能が使用できます

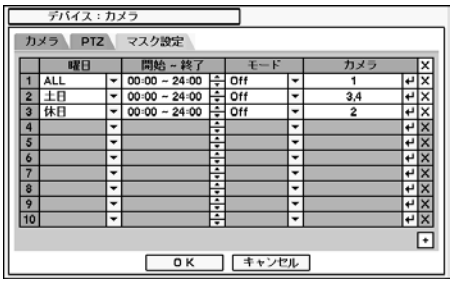
	ズームアウト
	ズームイン
	フォーカス（近）
	フォーカス（遠）
	プリセット位置保存
	プリセット位置呼び出し

プリセット位置の選択

プリセットIDは、「0」から「512」まで設定できます。「1」から「16」までは表示されている画面から直接選択します。それ以外のIDを選択する場合は、More ボタンを押すと下図のような画面が表示されるので、希望の番号を入力し、 OK ボタンを押して選択します。



マスク設定



監視条件の設定ができます。
設定すると、監視映像が表示されなくなります。
カメラ別に、曜日や時間によるスケジュール設定や表示の度合いを変えるモード設定ができます。
モード低：映像は非表示ですがＯＳＤは表示されます。
モード高：映像もOSDも非表示となります

注：マスク設定の機能は、録画には影響を与えません。

2-2-2. メニュー > デバイス > 音声

集音入力の設定を行うことができます

2-2-3. メニュー > デバイス > アラーム

アラーム

スケジュール

アラーム継続時間： 5秒から、最大10分までアラーム継続時間を設定できます。

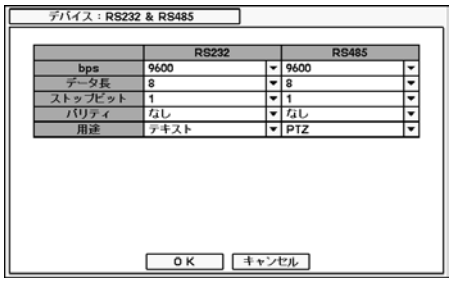
スケジュール：アラーム動作のスケジュールを設定できます。曜日・時間帯・モード（イベント/常時ON/ 常時OFF）・アラーム（そのスケジュールで動作させるアラームやブザー）の設定を行います。

↵ ボタンを押すと左の画面が表示され、アラームとブザーを選択することができます。

2-2-4. メニュー > デバイス > コントローラ

DVR対応のキーボードコントローラーを接続する場合は、▼ ボタンを押してリストからキーボードを選択します。

2-2-5. メニュー > デバイス > RS232 & RS485



▼ ボタンを押して各ポートを選択します。

RS232: POS連動のテキストイン・PTZカメラ・キーボードの設定を行います。

RS485: POS連動のテキストイン・PTZカメラ・キーボードの設定を行います。

注: テキストインの装置（レジなど）の情報は、ASCII コードを使ってDVRに転送します。

2-3. ディスプレー

ディスプレーの設定、コンポジット出力の設定ができます。

2-3-1. メニュー > ディスプレイ > 表示

言語: ▼ ボタンを押して、使用する言語を選択します。

ステータスバー非表示: 非表示（OFF）を選択した場合、設定時間が経過するとステータスバーが消えます。

モニタリング

表示間隔 ： シーケンスモードの時、各カメラの画像の切り替え時間を設定します。

イベントポップアップ ： あらかじめ設定されたイベントが発生した時、該当するカメラ映像が全画面に表示されます。

解像度

HDMI及びVGA出力の解像度を設定します。

PIP

PIP(ピクチャーインピクチャー)の大きさと位置を設定する事が出来ます。

2-3-2. メニュー > ディスプレー > スポット

イベントポップアップ: あらかじめ設定したイベントが発生した時、メイン画面でカメラ映像がポップアップ表示されます。

表示間隔 ： 各カメラの画像の切り替え時間を設定します。

カメラ:スポットモニターに出力するカメラを設定します。ただし、イベント発生時でも、表示されるのは設定したカメラの画像のみです。

注: スポット出力は、ライブモードの時、サブメニューから操作できます。スポットモニターに 表示させたいカメラを選択します。工場出荷時はカメラ1になっています。 シーケンスモードを選択すると、選択したカメラの映像が切り替わって表示されます。

2-3-3. メニュー > ディスプレー > デジタルサイネージ

デジタルサイネージ

デジタルサイネージ開始 ： デジタルサイネージを作動させるまでの時間を設定します。

画像間隔（秒）： 表示させたいイメージ画像やビデオクリップを選択し、露出時間を設定します。

ステータス:入力 ボタンを押すと、あらかじめ製作したデジタルサイネージデータを読み込みます。データの作成方法は、「付録C 広告画像づくり」をご参照ください。

スケジュール

モニターごとに表示されるデジタルサイネージのスケジュールを設定できます。設定されたスケジュールに応じて、デジタルサイネージが自動表示されます。

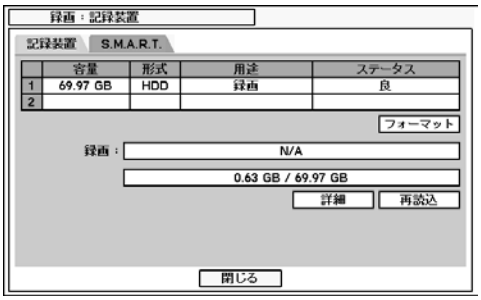
注: デジタルサイネージ表示中は、音声出力はできません。

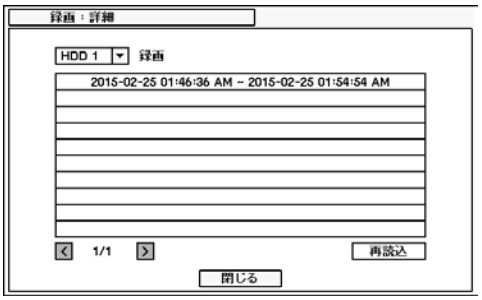
2-4 録画

記録装置・記録・記録時間計算の設定や表示ができます。

2-4-1. メニュー > 録画 > 記録装置

情報





内蔵または外付けで接続されたHDDの容量・形式・用途・ステータスが表示されます。

フォーマット:フォーマット　ボタンを押すと、ハードディスクに選択画面が表示されます。ハードディスクを選択してフォーマット ボタンを押せば、該当のハードディスクをフォーマットします。

記録: ハードディスクに保存されている期間が表示されます。

詳細: ハードディスクに保存されているデータの詳細が表示されます。

S.M.A.R.T.

ハードディスクの状態と温度が表示されます。

再読込 ボタンを押すと、最新情報に更新されます。

2-4-2. メニュー > 録画 > 録画

上書き設定や録画解像度・フレームレート・画質の設定ができます。

※カメラ個別の録画フレームの設定は、「スケジュール」の画面で行います。

上書き:ハードディスクの記録領域がいっぱいになった場合、一番古い録画映像から上書きされます。

自動消去(日単位):「ON」にしておくと、設定された日数より古いデータは自動で削除されます。

解像度:録画の解像度を設定します。

連続録画:連続録画時の録画フレームと画質を設定します。

イベント録画:イベント録画時の録画フレームと画質を設定します。

緊急録画: 緊急録画時の録画フレームと画質を設定します。

注: D1またはHalf D1で録画する場合は、ipsを1以上に設定してください。画像と音声にずれが生じる場合があります。

イベント

イベント録画、緊急録画の時間を設定します。

プリ前録画時間: イベント録画モードで、設定された時間、イベント発生前の映像を保存します。 最大30秒間まで設定可能です。

緊急録画時間: 緊急録画の時間を5秒から30分まで設定できます。「無制限」を選択すると、停止するまで録画が続きます。

ポスト録画時間:イベント発生後の録画時間を30分まで設定できます。

スケジュール

曜日・時間帯・モード・カメラ・オプション設定など、詳細な録画スケジュールの設定ができます。

[+] ボタンで、新しいスケジュールを追加できます。削除する際は [X] ボタンを押します。[設定] を押すと、フレーム数や画質、解像度の設定ができます。

初期設定に戻す: チェックすると、メニュー > 録画 > 録画 > 録画で設定した条件が適用されます。

2-4-3. メニュー > 録画 > 録画ツール

録画状況

現在の録画の設定と状況を確認できます。

左図のとおり、フレーム数・画質・解像度の順に　表示されています。

[再読込]ボタンを押すと、最新の情報に更新されます。

HDD容量

ハードディスクの録画可能時間と録画使用量を　計算することができます。
フレーム数・カメラの台数・画質を入力して 計算 を押すと、搭載されたHDDの容量に応じて、おおよその録画可能な時間を計算します。

注:表示される録画可能時間は、実際の録画可能時間を保証するものではありません。録画する映像の条件により、録画可能な時間は変動します。

注: フレーム数は手動で変更してください。解像度が変更されてもフレーム数は変更されません。

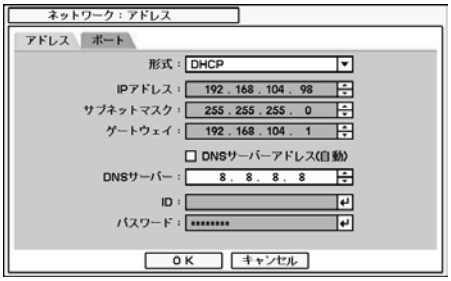
注: 各解像度のサイズ – WCIF: 472X240, Half D1: 9440x240, D1:944x480

2-5. ネットワーク

ネットワークアドレス・DDNS設定・遠隔通知・映像配信に関する設定ができます。

2-5-1. メニュー > ネットワーク > アドレス

アドレス



ポート

アドレスメニューでは、形式・IPアドレス・サブネットマスク・ゲートウェイ・DNSサーバーの設定ができます。

形式　：固定IP・DHCP ・ADSL(PPPoE) などの形式を設定します。

IPアドレス　：▲▼ ボタンでIPアドレスを入力します。

サブネットマスク　：▲▼ ボタンでサブネットマスクを入力します。

ゲートウェイ　：▲▼ ボタンでゲートウェイアドレスを入力します。

DNSサーバー　：▲▼ ボタンでDNSサーバーのアドレスを入力します。DNSサーバーを設定する場合、DVRNSサーバーのセットアップ中は、IPアドレスの代わりにDVRNSサーバーのドメイン名を使用することができます。

DNSサーバーアドレスの自動ダウンロード: DHCPまたはPPPoE方式を使用している場合、チェックを入れるとDNSサーバーのアドレスを自動的にダウンロードできます。

ポートメニューでは、外部接続のためのポートナンバーを設定します。それぞれの接続に必要なポートナンバーが表になっています。

ネットワークポート　：遠隔監視ソフトに接続するポートを設定します。

ウェブポート　：インターネットエクスプローラーに接続するポートを設定します。

UPnP使用　：チェックを入れると、自動的に接続されたルーターにポートを設定します。

※1 ルーターはUPnPに対応しますが、同じポートナンバーが既に使用されている場合は画面にメッセージがでますので、別のポートナンバーを設定してください。

※2 注意:ADSL（PPPoEタイプ）においては、ID とパスワードの入力が要求されます。

※3 ネットワークポートは、基本的に10101に設定されていますが、必要に応じて1500～32000のポートを使用することができます。

2-5-2. メニュー > ネットワーク > ダイナミックDNS

ダイナミックDNS機能の設定をします。

DDNS: ドメイン名を入力すると、DDNSサービスに接続できます。

注: “dvr-ddns.com” は無料のDDNSサービスです。設定方法は、「付録:DDNS設定」をご参照ください。

ホスト名: ↵ ボタンを押すとキーボードが表示されますので、ホスト名を入力してください。

ID/パスワード:認証のためのIDとパスワードを入力してください。

※DDNSサービスに登録されたIDとパスワードを使用してください。

※ホスト名は、DDNSサービスに登録しなくても、自動的に登録されます。ホスト名を入力して、使用IDをキャンセルしてください。ホスト名が重複していると使用できません。アップデート ボタンを押すと、 使用可否のメッセージが表示されます。

2-5-3. メニュー > ネットワーク > 遠隔通知

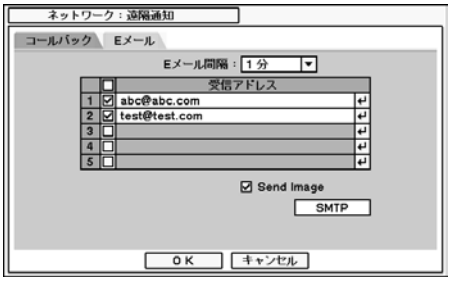
コールバック

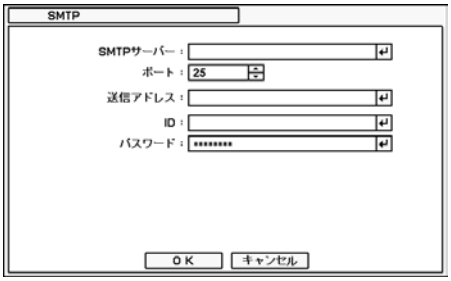
コールバックメニューでは、DVRで発生したイベントを、同時に複数のクライアントに同時に遠隔通知するための設定ができます。通知するためには、コールバック先のIPアドレスを入力します。↵ ボタンを押すと、キーボードが表示されます。

コールバック間隔: 時間を入力すると、イベント転送の間隔を調整できます。

※ 設定した時間の間は、イベントが発生してもすぐに通知されません。間隔を30秒に設定すると、30秒ごとに新たに発生したイベントが通知されます。

Eメール





Eメールメニューでは、イベント発生時にテキストメッセージでEメール通知をするための設定ができます。

Eメール間隔 ： 時間を入力すると、Eメールによるイベント通知の間隔を調整できます。

受信アドレス ： 通知を受信するメールアドレスを入力します。 5件まで設定できます。

Send Image ： チェックすると、Eメール送信の際、JPEGのイメージが添付されます。

※ 設定した時間の間は、イベントが発生してもすぐに通知されません。間隔を30秒に設定すると、30秒ごとに新たに発生したイベントが通知されます。

SMTPサーバー ： 仮想キーボードを使用して、SMTPサーバーを入力することができます。SMTPサーバーの情報は、ネットワーク管理者から受け取ってください。

送信者 ：Eメール送信者のEメールアドレスと名前を入力します。

2-5-4.メニュー > ネットワーク > 映像配信

ライブ映像の最大送信フレーム数とネットワーク 帯域幅を設定することができます。

2-6. イベント

センサー・モーション・ビデオロス・テキストイン・システムなどのイベントを、様々な機能と連動させる 設定ができます。

2-6-1.メニュー > イベント > センサー

センサー

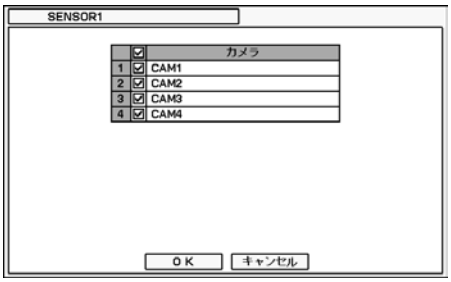
センサーの使用とセンターのタイプを選択することができます。▼ ボタンを押してタイプを選択します。

NC: ノーマルクローズ

NO: ノーマルオープン

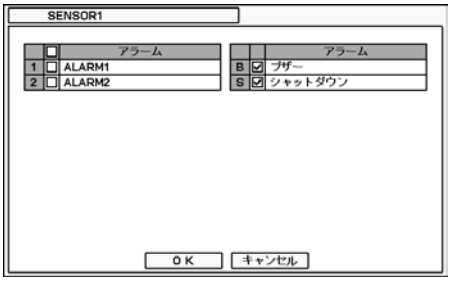
最下部のセンサー(E)は緊急録画専用です。このセンサーが検知すると、DVRは緊急録画に切り替えられます。

録画



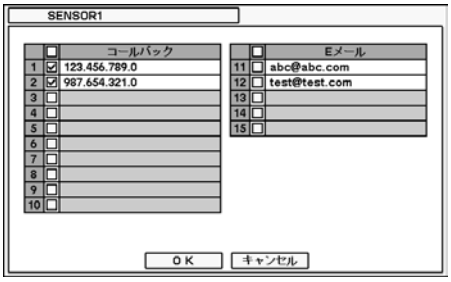
各センサーを1台または複数台のカメラと連動させてセンサー録画を設定することができます。 ↵ ボタンを押して、連動させるカメラを選択します。

アラーム



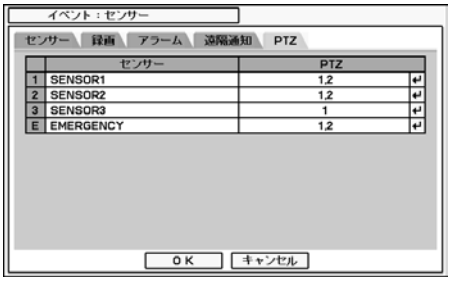
各センサーを一つまたは複数のアラームと連動させる設定ができます。 ↵ ボタンを押して、連動させるアラームを選択します。

遠隔通知



各センサーを一つまたは複数の宛先にコールバックまたはEメール通知を送信するように設定することができます。↵ ボタンを押して、コールバック先またはEメールアドレスを入力します。

PTZ



イベントと連動してPTZカメラのプリセット機能を使うための設定を行います。イベントが発生した時、事前に設定したPTZカメラのプリセット位置に移動します。上記の設定では、センサー1が作動すると、1番と2番のカメラが事前に設定したプリセット位置に移動します。PTZの部分をクリックすると上右のような表が表示され、カメラごとにプリセット位置を設定することができます。

PTZプリセットは、センサー/モーション感知/ビデオロスの3種類のイベントと連動します。複数のイベントが同時に発生した場合は、センサー > モーション感知 > ビデオロスの順に優先されます。

2-6-2. メニュー > イベント > モーション

モーション

モーション感度・モーション感知表示・モーション範囲などのモーション検知機能を設定できます。

感度 ：「最高」から「低」まで、5段階でモーション感度を設定できます。

領域 ： モーション感知の範囲を設定できます。

設定 を押すと、上右のようにブロックが表示され、感知範囲を設定することができます。ブロックはモーション感知を指定した領域を表しています。

ブロック選択 ： 矢印のキーでブロックを選択します。ナンバーキーで選択とキャンセルができます (マウスを使用する場合は左クリック)。

ブロック解除 ： 選択されたブロックを消去します。

全範囲選択 ： 画面全体のブロックを選択します。

全消去 ： 画面全体のブロックを解除します。

録画

カメラごとに、他のカメラで感知した一つまたは複数のモーションと連動させる設定ができます。
↵ ボタンを押して、連動させるカメラを選択します。

アラーム

カメラごとに、モーションが感知された場合に一つまたは複数のアラームと連動させる設定ができます。
↵ ボタンを押して、連動させるアラームを選択します。

遠隔通知

カメラごとに、モーションが感知された場合に一個所または複数個所へのコールバックもしくはEメール送信を設定することができます。
↵ ボタンを押して、連動させるコールバック先またはEメールアドレスを入力します。

PTZ

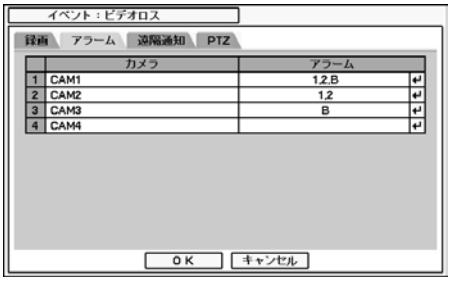
モーション感知イベントとPTZカメラを連動させます。モーションが感知されると、PTZカメラはあらかじめ設定されたプリセットポジションに移動します。

2-6-3. メニュー > イベント > ビデオロス

録画

カメラからの映像が途切れた時（ビデオロス）、1台または複数台のカメラをイベント録画と連動させることができます。
↵ ボタンを押して、連動させる1台または複数台のカメラを選択します。

アラーム

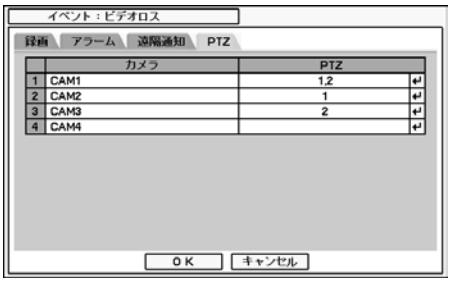


カメラの映像が途切れた際に、カメラごとに1つまたは複数のアラームと連動させる設定ができます。 ↵ ボタンを押して、そのカメラと連動させるアラームを選択します。

遠隔装置

カメラの映像が途切れた際に、カメラごとに1つまたは複数のコールバック機能もしくはEメール送信機能と連動させる設定ができます。
↵ボタンンを押して、そのカメラと連動させるコールバック先もしくはEメール送信先を選択します。

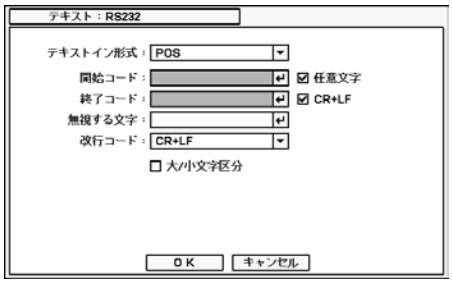
PTZ



PTZは、ビデオロスイベントが発生した際に、プリセット機能と連動させることができます。ビデオロスが発生すると、あらかじめ設定した位置に動いて撮影します。

2-6-4. メニュー > イベント > テキスト

テキストイン

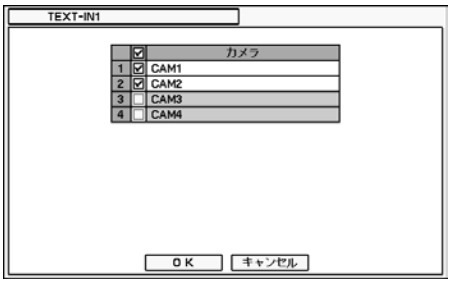


本製品は、POSやATMの機械と連動して使用することができます。

注意：連動させるためには、POSやATMのASCⅡコードのサポートが必要です。

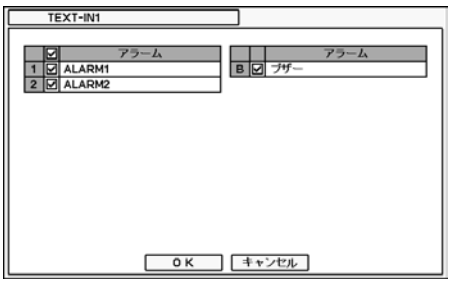
テキストイン形式 ： テキスト入力をする形式を選択します。
開始コード ： テキストを取り込む最初の文字列を指定します。
任意コード ： どのような文字が入ってきても処理が始まります。
終了コード ： 処理を終了させる文字列を指定します。
無視する文字 ： トランザクション記録時に除外したい文字列を設定します。
改行コード ： 行の最後を指定する単語を設定します。
大/小文字区分 ： チェックをいれると、入力する文字の大文字・小文字を区別します。

録画



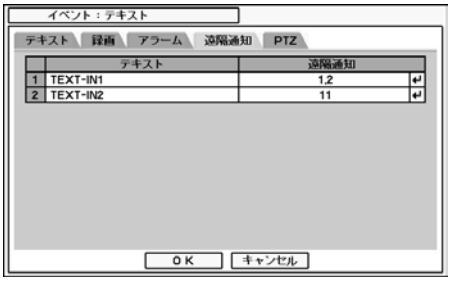
テキストイベントを、1台または複数のカメラと連動させることができます。↵ ボタンを押して、連動させるカメラを選択します。RS232もしくはRS485のポートを同時に使用する場合は、別々のカメラと連動　させてください。たとえばR232のポートがカメラ1～12にセットされていれば、RS485は13～16に設定します。同じカメラを連動させることはできません。

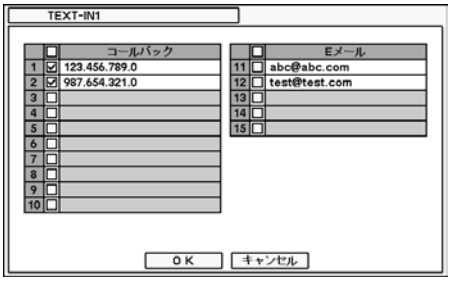
アラーム



テキストイベントを、1つまたは複数のアラームと連動させることができます。↵ ボタンを押して、連動させるアラームを選択します。「B」と表示されているときは、アラームを検知するとブザーが鳴ります。

遠隔通知





テキストイベントを、1つまたは複数のコールバック機能やEメール送信機能と連動させることができます。 ↵ ボタンを押して、連動させるコールバック先やEメールの送信先を選択します。

PTZ

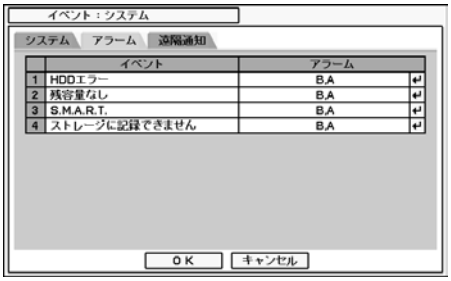
テキストイベントを、1台または複数のPTZカメラのプリセット機能と連動させることができます。
↵ ボタンを押して、連動させるカメラを選択します。

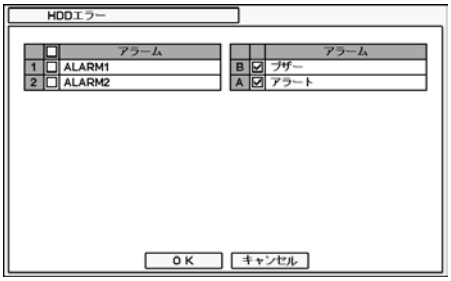
2-6-5. メニュー > イベント > システム

システム

S.M.A.R.T（自己診断）機能で、HDDの温度や残容量、録画の状態などを確認できます。
「残容量警告しきい値」のパーセンテージを設定しておくと、設定値に達した場合、下記のようなさまざまな方法で警告が出るように設定できます。
S.M.A.R.T 限界温度値を設定しておくと、ハードディスクの温度が設定値を超えた時警告が出るように設定できます。

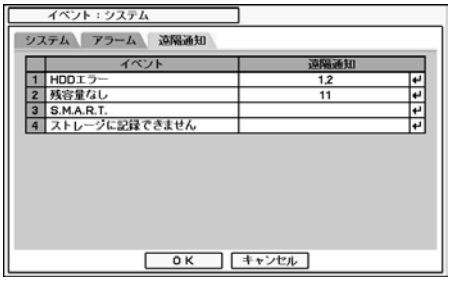
アラーム

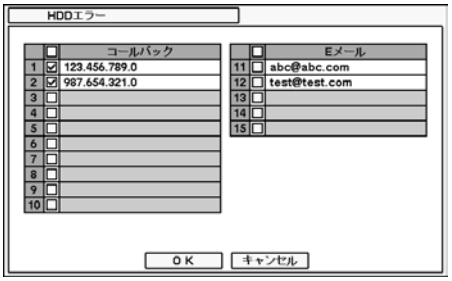




各システムイベントを、1つまたは複数のアラームと連動させることができます。↵ ボタンを押して、連動させるアラームを選択します。「アラート」を選択すると、イベント発生時に警告のメッセージが画面に表示されます。

遠隔通知



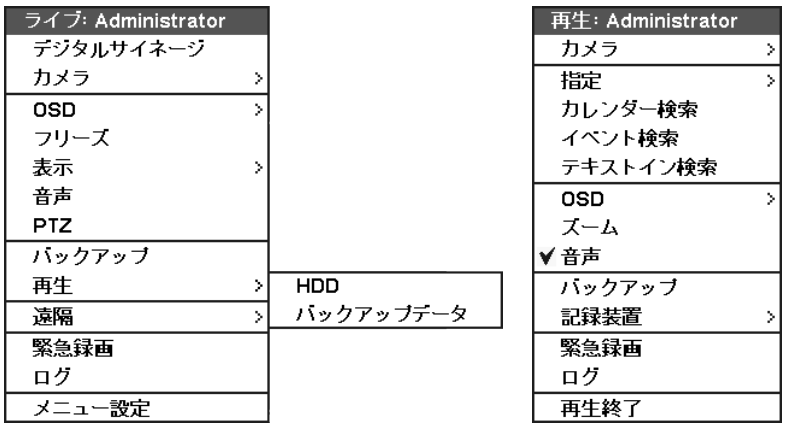


各システムイベントを、1つまたは複数のコールバック機能およびEメール送信機能と連動させることができます。

↵ ボタンを押して、連動させるコールバック先またはEメール送信先を選択します。

3. 再生

本製品は、録画されたデータをさまざまな方法で検索し、再生することができます。画面をマウスで右クリックすると下記のようなメニューが表示されるので、「再生」から、再生したいものを選択します。「HDD」を選ぶと本体に録画されたデータ、「バックアップデータ」を選ぶと、外付けHDDのデータを再生することができます。



カメラ : カメラの番号を選択します。

検索 : 時間や日付で指定します。データの最初や最後に移動することもできます。また、現在の時間から、指定時間（5/10/15/30/60秒）遡って再生することができます。

レイアウト : ディスプレイのレイアウトを設定できます。 (8/16chモデムのみ)

カレンダー検索 : カレンダーから日付を選択します。

イベント検索 : イベントリストから検索します。

テキストイン検索 : テキストイベントのリストから検索します。.

OSD : OSDディスプレイのオプションを選択します。

ズーム : x1, x2, x4, x8のズームを選択します。

音声 : 音声出力を選択します。

バックアップ :バックアップかクリップ作成を選択できます。

記録装置 : HDDかバックアップデータかを選択します。

緊急録画 : 緊急録画データを再生します。

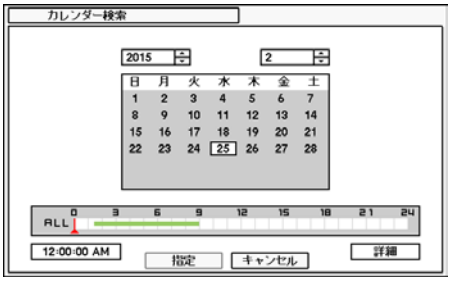
ログ : システム/イベントログを選択します。

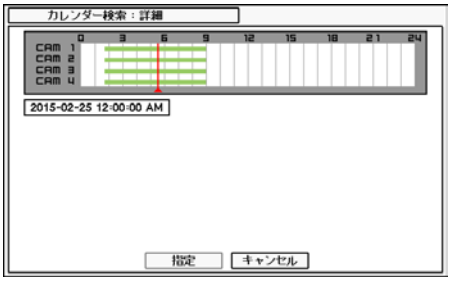
再生終了 : 再生を終了し、監視モードに切り替えます。

3-1. 時刻指定

日付と時刻から検索します。 ボタンでそれぞれを設定します。「最初へ移動」をチェックすると録画データの始めに移動し、「最後へ移動」をチェックすると録画データの最後に移動します。

3-2. カレンダー検索



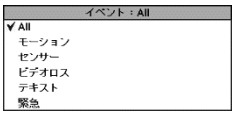


カレンダーから簡単にデータを検索することができます。録画データがある日は黄色で表示されます。日付を選択すると詳細のデータが表示されます。さらに細かいデータを確認したいときは、詳細 を押すと、上部右のような画面で確認できます。

詳細画面上部の数字は24時間表示で時刻を表しています。また、左側にはカメラの番号が表示されています。録画データのある部分はラインで表示されています。赤のインジケーターラインを動かすと、ライン上の時間に移動できます。

設定が終了したら、指定 ボタンを押すと再生が始まります。

3-3. イベント検索



イベントリストから簡単に検索ができます。日付とイベントのタイプを選択すると、より詳しいデータが検索できます。イベント を押すと、イベント検索のオプションが表示されます。

All ： 全てのイベントが表示されます。
モーション ： モーションイベントのみ表示します。
センサー ： センサーイベントのみ表示します。
ビデオロス ： ビデオロスイベントのみ表示します。
テキスト ： テキストインに関するイベントのみ表示します。
緊急 ： 緊急録画のイベントのみ表示します。

再生したいイベントの ↵ をクリックし再生ボタンを押すと再生が始まります。

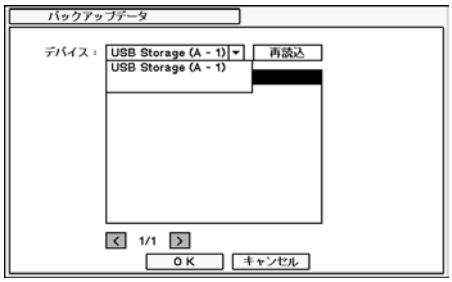
3-4. テキスト検索

POS連動などで処理されたデータの検索ができます。時刻と、トランザクションのデータで検索します。.

開始 : 検索するデータ範囲の開始時刻を入力します。.
終了 : 検索するデータ範囲の終了時刻を入力します。
テキスト検索 : 検索したいテキストを入力します。
大/小文字区分 : チェックすると、入力した文字の大文字/小文字を区別して処理します。

条件の設定ができたら OK を押すと、検索を開始します。

3-5. バックアップデータの再生



バックアップ用のメディアに保存されたデータを、DVRから再生することができます。デバイスを接続し、再生するデバイスの種類とファイルを選択します。

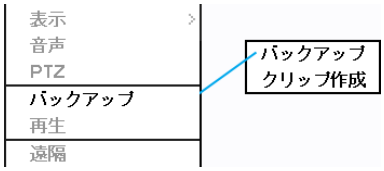
3-6.再生ボタン

- **巻き戻し再生**: 巻き戻しながら逆再生します。
- **コマ戻し**: コマ送りで逆再生します。
- **一時停止**: 再生画面を一時停止します。
- **コマ送り**: コマ送りで再生します。
- **再生**: 通常の速度で再生します。

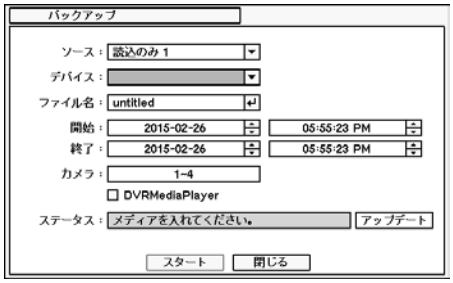
再生や逆再生の速度を調整するときは、◄ か ► のボタンを繰り返して押すと、最大32倍速まで再生速度が変わります。

4. バックアップ

録画したデータは、USBフラッシュメモリにバックアップできます。監視モードや再生モードで「バックアップ」を選択すると、「バックアップ」または「クリップ作成」のオプションメニューが表示されます。



4-1. バックアップ



録画したデータは、USBデバイスにバックアップすることができます。

デバイスの ▼ ボタンを押して、保存したいUSBデバイスを選択します。

▲▼ ボタンでバックアップを取りたい日時の範囲を指定します。

データを取りたいカメラの番号を入力します。全てのカメラのデータを保存する場合は「All」と入力します。音声も保存したい場合は「音声」を選択すると、映像データとともに音声も保存されます。

「ステータス」には、保存するメディアの容量及び進行過程が表示されます。

DVR Media Player のオプションを選択してバックアップすると、実行ファイルのフォーマットでデータがバックアップされます。このファイルをパソコンで再生する場合は、ダブルクリックすると自動的にインターネットエクスプローラーが起動します。この機能は、Internet Explorer 7.0 以上のバージョンで作動します。

※ 監視中・または録画データを再生中の場合、バックアップの速度が遅くなることがあります。

※ バックアップの実行中は、絶対にメディアを外さないでください。メディアおよびDVRのシステムに致命的な被害をもたらす場合があります。

※ CDやDVDのバックアップ中でも、開ボタンを押すとトレイが開いてしまうので、バックアップ中は 完了するまでCDやDVDを取り出さないでください。

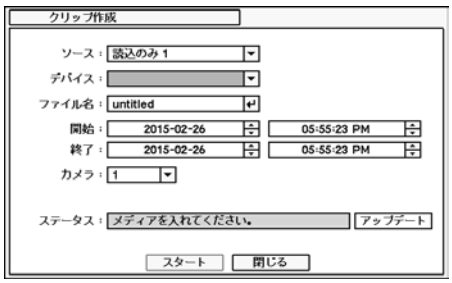
4-2.簡易バックアップ

再生中にバックアップボタンを押すと、簡易バックアップのウィンドウが表示されます。 デバイス・ファイル名・音声を選択してスタートボタンを押せば、再生と同時にバックアップを開始します。バックアップ中は、バックアップのアイコンが画面に表示されます。バックアップボタンを再度押すとバックアップを終了します。

※ バックアップ中は、絶対にメディアを外さないでください。メディアおよびDVRのシステムに致命的な障害をもたらす場合があります。

※ 簡易バックアップの実行中は、再生速度が通常よりも遅くなる場合があります。

4-3.クリップ作成



クリップ作成では、PCで再生できるバックアップファイルを、チャンネルごとに作成します。再生中　または一時停止中にポップアップメニューのクリップ作成を選択します。

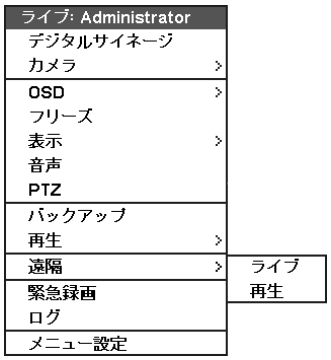
詳細を設定して スタート ボタンを押すと、クリップが作成されます。再生するには Quick Time player をご使用ください。

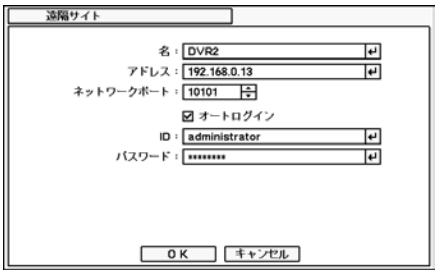
※ クリップ作成で作成したファイルは、*Window Media Player*では再生できません。

5. 遠隔監視

TH-R6100シリーズは、他のデバイスから遠隔監視ができます。

5-1. 遠隔監視



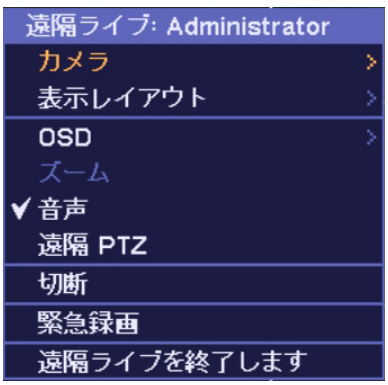


外部機器で確認するためには

1. 監視画面を右クリックし、遠隔監視のメニューを表示させます。
2. 「遠隔監視＞ライブ」を選択します。
3. 監視拠点のリストが表示されます。このリストには100件の拠点を登録できます。
   *登録するには、拠点名・アドレス・IDとパスワードを入力します。
4. 接続したい拠点を選択します。
5. 拠点を修正したい場合は「編集」ボタンを押します。

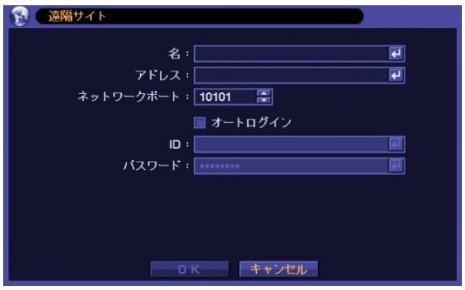
*自動ログインを選択していない場合は、IDとパスワードを入力してください。

5-1-1. ポップアップメニュー



カメラ: カメラ番号を選択します。
表示レイアウト: 画面表示のレイアウトを選択します。(8 / 16 ch のみ)
OSD : OSDのオプションを選択します。
ズーム: x1, x2, x4の倍率で拡大します。
音声 : 音声出力のチャンネルを選択します。
遠隔PTZ: PTZカメラの遠隔操作を選択します。
接続/切断 : 接続/切断する監視拠点を選択します。
緊急録画 : 緊急録画の開始/停止を操作します。
遠隔ライブを終了します :遠隔監視を終了し、元の画面に戻します。

5-2. 遠隔再生

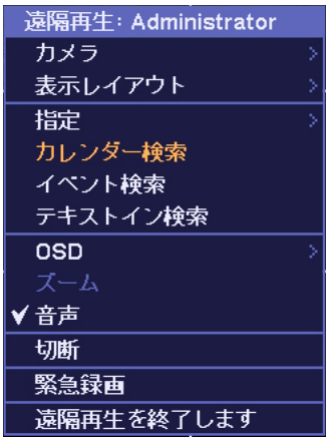


遠隔地のDVRを遠隔操作で録画再生します。

1. 監視モードで画面を右クリックすると、遠隔監視のメニューが表示されます。
2. 「遠隔＞再生」を選択します。
3. 監視拠点のリストが表示されます。このリストには100件の拠点を登録できます。
   *登録するには、拠点名・アドレス・IDとパスワードを入力します。
4. 接続したい拠点を選択します。
5. 拠点を修正したい場合は「編集」ボタンを押します。

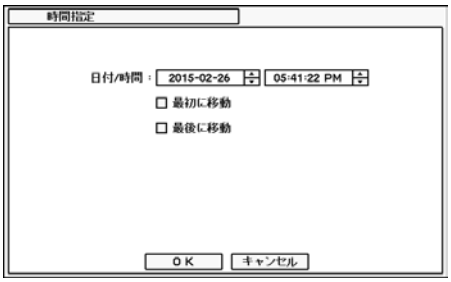
*自動ログインを選択していない場合は、IDとパスワードを入力してください。

5-2-1. ポップアップメニュー



カメラ: カメラ番号を選択します。
表示レイアウト ： 画面表示のレイアウトを選択します。(8 / 16 ch のみ)
指定:再生を始める箇所に移動します（日時指定・データの最初に移動・データの最後に移動）。 また、5/10/15/30/60秒ずつ移動させる ことも可能です。
カレンダー検索: カレンダー表示から録画データを検索します。
イベント検索: イベントリストから録画データを検索します。
テキストイン検索: テキストインデータから録画データを検索します。
OSD: OSDのオプションを選択します。
ズーム ：x1, x2, x4の倍率で拡大します。
音声 :音声出力チャンネルを選択します。
接続/切断 :接続する拠点を選択します。
緊急録画 ： 緊急録画のオン/オフを選択します。
遠隔再生を終了します ： 再生を終了し、監視モードに戻ります。

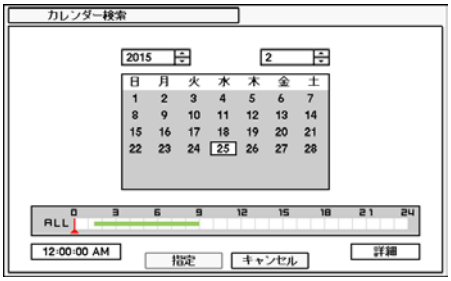
5-2-2.日時指定

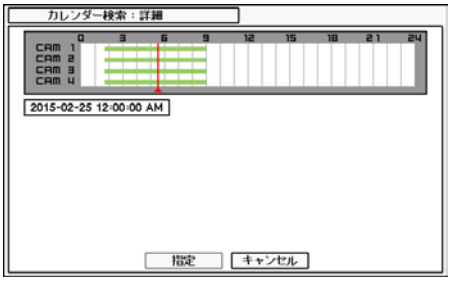


録画データを、日時指定して検索します。

▲▼ ボタンで日時を設定し、データの最初に移動するか、最後に移動するかを選択します。

5-2-3. カレンダー検索



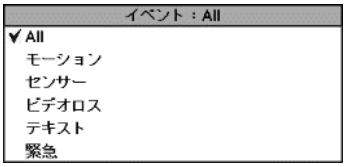


カレンダーから日付を選択します。録画データがある日は色が変わって表示されます。日付をクリックし、詳細ボタンを押すと右上のような情報が表示されるので、希望の時間を選択します。

横軸は時間、縦軸はカメラのチャンネルを表しています。赤い線は現在選択されている時間を示しています。

選択した時間から再生するには、再生 ボタンをクリックします。

5-2-4. イベント検索



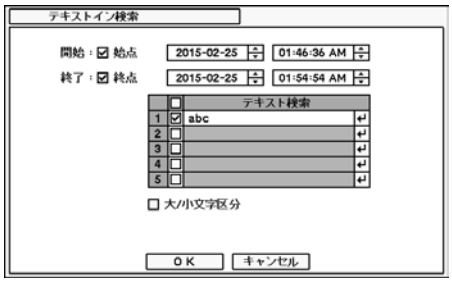
イベントリストから検索します。

日付とイベントの種類を設定し、イベント ボタンをクリックすると上図のようなリストが表示されます。

全て ： 全てのイベントを表示します。
モーション ： モーションイベントを表示します。
センサー ： センサーイベントを表示します。
ビデオロス ： ビデオロスイベントを表示します。
テキストイン ： テキストインイベントを表示します。
緊急録画 ： 緊急録画イベントを表示します。

いずれかを選んで ↵ ボタンを押すと再生されます。

5-2-5. テキスト検索



テキストインリストから検索します。

タイプ ：テキストインのタイプを選択します。
開始 ：検索範囲の開始日時を設定します。
終了 ：検索範囲の終了日時を設定します。
テキスト ：検索したい文字を入力します。

OK ボタンを押すと検索を開始します。

5-2-6. 注意事項

遠隔操作をする端末は、同じモデルか下位モデルでのみ有効です。 上位モデルまたは別のモデルではご使用になれませんのでご注意ください。

TH-R6104<->TH-R6104 (Yes)
TH-R6104 ->TH-R6108 (No)
TH-R6104 ->TH-R6116(No)

TH-R6108 ->TH-R6104(Yes)
TH-R6108<->TH-R6108(Yes)
TH-R6108 ->TH-R6116 (No)

TH-R6116 ->TH-R6104 (Yes)
TH-R6116 ->TH-R6108 (Yes)
TH-R6116<->TH-R6116(Yes)

株式会社東邦技研

□ 東京本社
〒110-0016 東京都台東区台東2-30-10 台東オリエントビル5F
TEL/03-5816-4678　FAX/03-5816-4540
URL http://www.toho-giken.com
E-mail　info@toho-giken.com

□ 大阪支店
〒532-0012 大阪市淀川区木川東3-1-31 大桜ビル3F
TEL/06-6770-9820　FAX/06-6770-9821